**広報おおさき7月号　2023　No.208**

**今月の表紙**

　　5月28日、古川地域宮沢地区で、大崎の米『ささ結』ブランドコンソーシアムと、 （株式会社エフエム仙台）の「Datefm SDGs 」との共催により、ささ結の田植え体験会が行われました。

　市内外から子どもや大人9組21人が参加し、坂井農産の皆さんの指導の下、泥の感触やカエル、タニシなどの生き物に歓声を上げながら、手植えで行う田植えを楽しみました。

　また、田植えの後は4年ぶりにが開かれ、炊きたてのささ結のおにぎりや地場産野菜の漬物、純米大吟醸酒「ささ結」に舌鼓を打ち、秋の豊作を願いました。今年の秋には、稲刈り体験会も開催される予定です。

　ささ結は、今年60周年を迎えるササニシキの直系ブランド米で、デビュー9年目を迎えます。ササニシキのように、多くの人に愛され続ける米になってほしいですね。

**Main Contents　目次**

04 安心して生活できる医療提供体制の確保に向けて

06 おおさき花火大会に思いを込めて

08 DiscoverOSAKI

09 OSAKI Culture

10 オオサキプレイガイド

12 新型コロナウイルスワクチン接種情報

13 くらしの情報

　　 市職員を募集します　ほか

24　　 子育て支援情報　ほか

26 相談コーナー

27 休日救急当番医 ほか

28 目で観る刀の教科書展が開催されました

**大崎市公式SNS発信中です！**

市公式・は、行政情報だけではなく、観光やイベント情報も盛り込み、充実した情報をお届けします。二次元コードから、登録をお願いします。

問い合わせ 秘書広報課広報広聴担当 電話23-5023

**みんなで知ろう！考えよう！行動しよう！Let's!男女共同参画**

**vol.8　「ハラ」のない社会を！**

問い合わせ まちづくり推進課男女共同参画推進室 電話23-2103

　皆さんは「Sogiハラ」という言葉を知っていますか。

　Sogiハラは、職場や学校などでの性的な嫌がらせや差別的な言動を指す言葉です。この問題は、被害者にとって深刻な影響を及ぼすだけでなく、労働環境や学習環境にも悪影響を及ぼします。

　Sogiハラは、個人の尊厳を侵害する問題であり、社会全体で取り組むべき重要な課題です。根本的な原因や被害者の心情について理解を深め、予防策や対処法についての知識を広めることも重要です。

　個人や組織、学校などが連携した環境を築くことが必要です。

　全ての人が尊重され、平等な権利を享受できる社会を実現するために、Sogiハラの撲滅に取り組みましょう。

**ちおこらむ地域おこし協力隊コラム**

問い合わせ 政策課地方創生担当 電話23-2129

**vol.2 デジタル戦略課のちおこ　富澤です！**

　今月は、デジタル戦略課のちおこ、富澤の活動を紹介します！

　現在、スマートフォンの操作に不安を感じている市民向けに、「スマホブートキャンプOsaki」というスマホ教室を開催しています。

　今年度からは、スマホを活用して、豊かに快適に生活する方法を、市民の皆さんと研究する「スマホライフLab.Osaki」という企画もスタートする予定です。併せて、「スマホリーダー」として活躍してくれる人も募集いたします！詳細は、18ページのくらしの情報を見てください。

　任期中の目標は、未来の大崎市がもっと住みよい街になっていくよう、デジタル活用支援を通して、種まきをしていくことです。

　どうぞよろしくお願いいたします！

写真：積極的に質問をする参加者

**オオサキワンダーミュージアム　人と大自然の青空博物館**

Vol.39　宮城県農業大学校講義で世界農業遺産「大崎耕土」を学びました！

問い合わせ 農政企画課世界農業遺産未来戦略室23-2281

　　5月9日に、宮城県農業大学校の1年生43人が、世界農業遺産「大崎耕土」について学びました。

　講師には、宮城大学の教授を招き、実際にや内川を見学しながら、歴史や役割などについて説明を受けました。

　郷古教授は、「地域で行う河川の草刈りなど、当たり前に行っていたことが、実は重要な役割を果たしている。地域で守り続けるのは大変なこと」と話していました。学生たちは、歴史に思いをはせながら講義を受け、「大崎耕土」の巧みな水管理システムの重要性について学んだ日でした。

写真：大堰首工の見学

**市長コラム　天地人**

みちのくウエストライン

　先般、本市で「石巻新庄道路・新庄酒田道路」整備促進フォーラムが開催されました。沿線の市町村長・議員、商工団体、国や県関係者など総勢１５０人の熱い集いでした。

　東北は豊かさ満載で、宝の宝庫です。かつて、マルコ・ポーロの東方見聞録に『黄金の国ジパング』として紹介されております。イザベラ・バードの日本奥地紀行では、『東洋のアルカディア・エデンの園』と絶賛されておりました。

　そして今、地球温暖化・コロナ禍によって、東北は住みやすい地域、田園回帰の憧れの地になっております。渡り鳥の南限地「渡り鳥に選ばれた東北」でもあります。

　パラダイムチェンジ、時は東北の時代を迎えております。

　しかし、東北はその誇れる豊かさや宝をつなぐアクセス、道路が極めて脆弱です。

　東北はかつて「奥の細道」や「みちのく」と言われました。奥羽山脈に阻まれて「出羽国」「陸奥国」に分断されておりました。豪雪にも悩まされてきました。

　『おくのほそ道』紀行文によると、松尾芭蕉も何度も道に迷っております。最近では、東日本大震災時、山形県側から物資を運んだトラックが、冬期間閉鎖のため引き返すというハプニングもありました。

　道は、人と物、暮らしをつなぐとともに、災害時の支援道路でもあります。そのような道づくりの中でも、石巻港から酒田港までをつなぐみちのくウエストラインは、東北中央部の東西交通軸として、医療連携、農業・ものづくり振興、観光資源活用、災害時応援などで、連携効果が抜群であり、発展性のある路線です。

　みちのくウエストラインを早期に整備し、東北新時代を拓いてまいりましょう。